ご注意：

本書は取り扱い説明書から注意文など、製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したものです。操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった場合にお使い頂く事を念頭に編集しており、正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

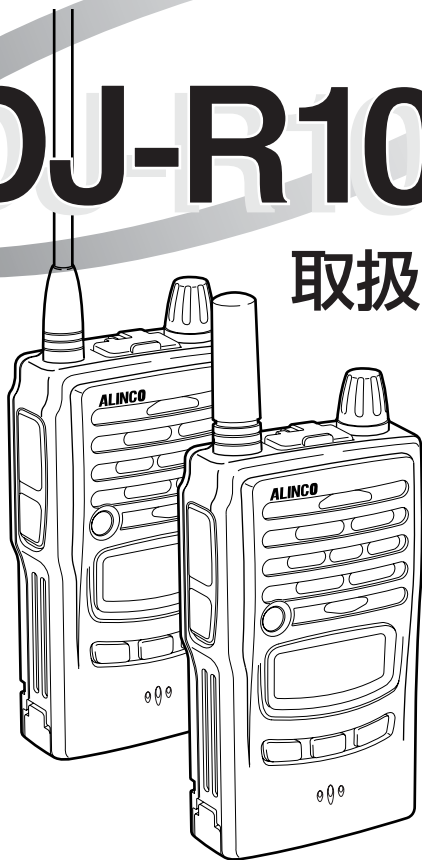
尚、正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウエブサイトをご参照ください。

http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html

ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

DJ-R100D

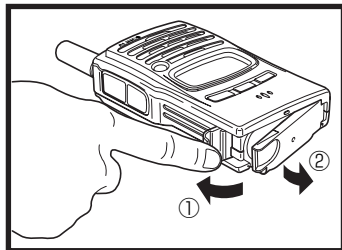
取扱説明書

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本製品の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。また、この取扱説明書は大切に保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。

アルインコ株式会社

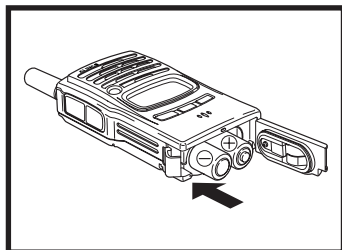
・・・・・・・・・・・ 乾電池の入れ方 ・・・・・・・・・・・

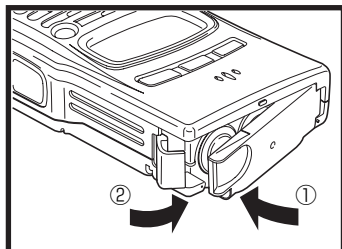
乾電池を次のように装着します。乾電池の代わりに、オプションの充電池、またはバッテリーパックを装着することもできます。

❶ カバーを開ける

①ロックを外します。
②カバーを開けます。

❷ 電池を入れる

市販の単三乾電池2本を、ケース内側の「+」、「−」の表示にしたがってセットします。

・+/−の向きが違わないように注意してください。
・電池は同じ種類の新しいものを使用してください。(大容量のアルカリ電池の使用をおすすめします。)
・市販の単三型充電池は使用しないでください。
・長期間使用しない場合は電池を取り外してください。
・電池の交換は、外部電源を外し、本機の電源をOFFにしてから行ってください。

❸ カバーを閉める

①カバーを閉めます。
②カバーを押さえながら、ロックをかけます。きちんと閉まっていることを確認してください。

●オプション

オプションの充電池、バッテリーパック、および関連するアクセサリーは次のとおりです。P.81の「オプション一覧」も参照してください。

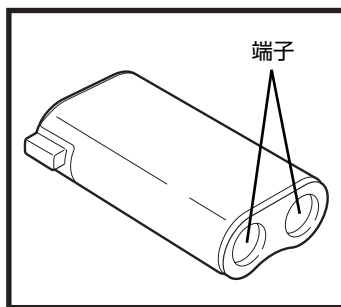
ニッケル水素充電池	：EBP-57N（1.2V-1800mAh）
リチウムイオンバッテリーパック	：EBP-60（3.7V-1200mAh）
ACアダプター	：EDC-122
充電スタンド	：EDC-131
充電スタンド/ACアダプターセット	：EDC-131A

注意 オプションの充電池、バッテリーパック使用上の注意

- ・オプションの充電池、バッテリーパックは出荷時には充電されておりません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
- ・充電は0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
- ・バッテリーパックの改造、分解や火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
- ・バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
- ・必要以上の長時間の充電（過充電）は避けてください。バッテリーパックの性能を低下させる恐れがあります。
- ・バッテリーパックの保存は、-20℃ ～ +45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
- ・バッテリーパックは、通常の使用で約500回の充電が可能ですが、所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
- ・ご使用済みのバッテリーパックは、環境保護のため、燃えないゴミといっしょに捨てずに、当社サービス窓口に相談するか、または電池回収協力店へご持参ください。

■バッテリーパックのショート防止のご注意

バッテリーパックを持ち運ぶときには、端子をショートさせないように注意してください。
大電流が流れて火傷や火事を起こす危険があります。

1

■バッテリーパックの保管について

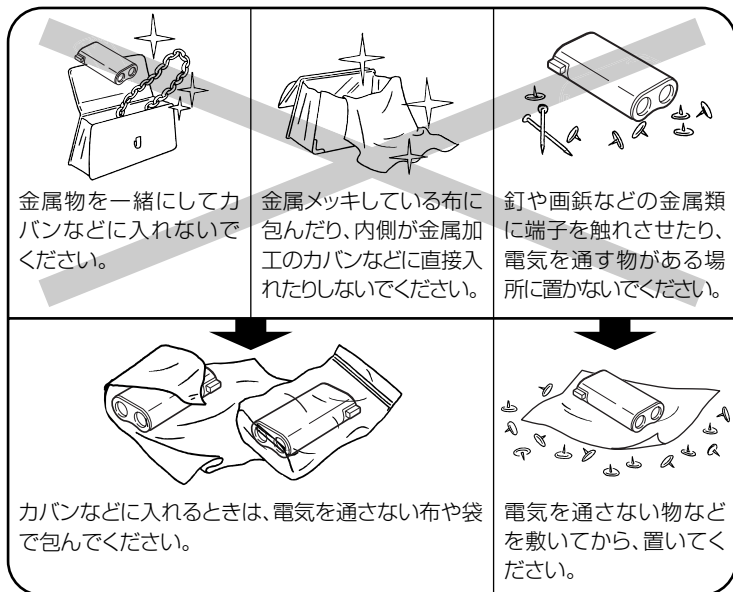
バッテリーパックを保管するときは、以下のことに注意してください。

金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。

金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。

釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置かないでください。

カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。

電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

■オプションの充電池、およびバッテリーパックの充電方法

本機には、ニッケル水素充電池用とリチウムイオンバッテリーパック用の2つの充電回路が内蔵されています。

ニッケル水素充電池（EBP-57N）：

本機にはニッケル水素充電池用トリクル充電回路が内蔵されていますが、微小電流による充電回路であるため満充電には長時間を要します。あくまでも補充電程度とお考えください。充電時間は約15時間です。

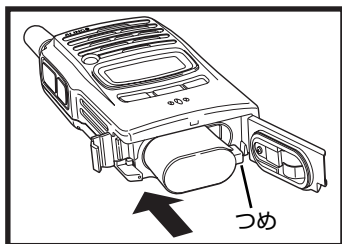
リチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）：

本機には、リチウムイオンバッテリー用の急速充電回路が内蔵されています。本機電源のON/OFFに関係なく充電が開始され、満充電になると停止します。充電時間は約3時間です。

単三乾電池（マンガン/アルカリ）装着時には絶対に充電しないでください。液漏れを起こし、事故や故障の原因となります。

1

❶ 本機にニッケル水素充電池または、リチウムイオンバッテリーパックを装着する

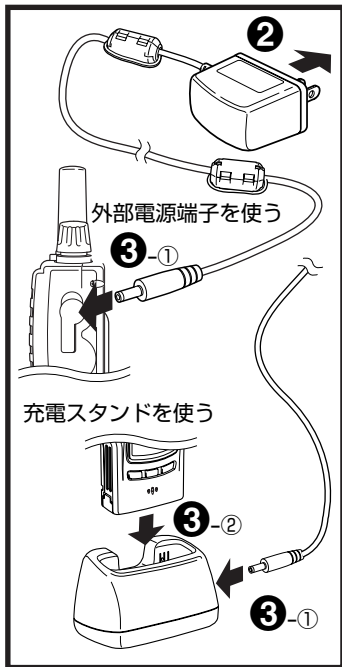
装着方法はP.13を参照してください。バッテリーパックは、つめの位置を確認して、端子が奥になるように挿入してください。

❷ ACアダプターを家庭用電源AC100Vコンセントへ接続する

❸ ACアダプターのプラグを本機の外部電源端子または、充電スタンドに接続する

●**外部電源端子を使う**

①本機の外部電源端子にACアダプターのプラグを接続します。
→リチウムイオンバッテリーパック装着時は、自動的に充電が開始されます。

●**充電スタンドを使う**

①充電スタンドにACアダプターのプラグを接続します。
②本機を充電スタンドに装着します。
→リチウムイオンバッテリーパック装着時は、自動的に充電が開始されます。

❹ ニッケル水素充電池を充電する場合のみ、Ni-MH電池充電機能（P.77）の設定に従い、充電機能をONにする

メモ　電源OFFの状態で充電すると「CHArGE」と表示され、▢が点滅します。

・・・・・・・ 各部の名前とはたらき ・・・・・・・

本機の各部の名前とそのはたらきを説明します。

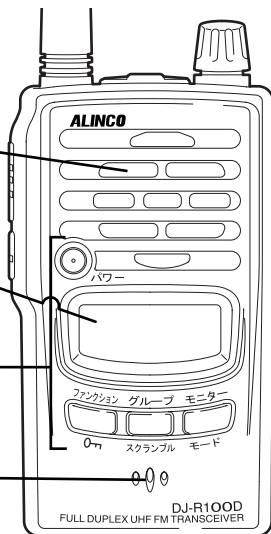
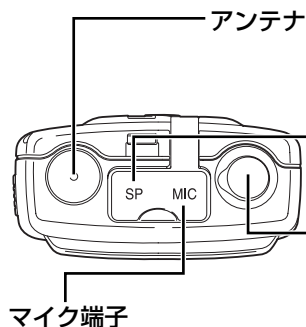
■前面部

スピーカー
薄型スピーカーが内蔵されています。

ディスプレイ
チャンネルや音量、各種設定内容を表示します。（P.20）

キーパッド
電源のON/OFFやモードの切り替えなど、各種設定に使用します。

マイク
マイクと口元は約5センチ離してください。

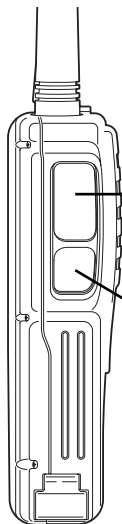
■上面部

アンテナ

注意　アンテナは外れないようになっています。アンテナを回したり、引き抜いたりしないでください。

イヤホン端子
イヤホンや外部スピーカーを接続する端子です。

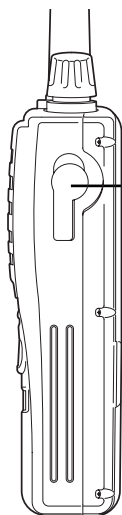
ダイヤル、［チャンネル（ボリューム、グループ、セット）］キー
ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。ダイヤルを押すと音量、グループ番号の設定、F点灯状態ではセットモードの項目選択ができます。

マイク端子
外部マイクを接続する端子です。

■側面部

［PTT］キー

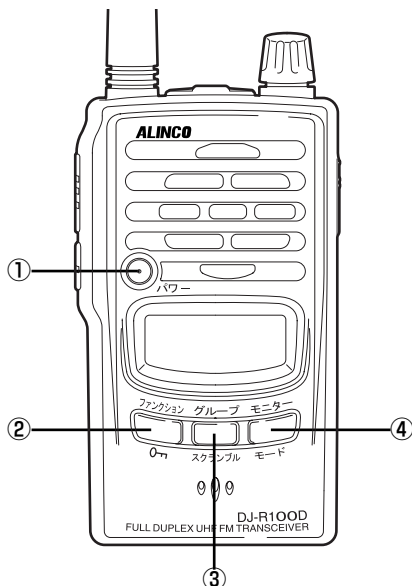
押すと送信します。離すと受信待ち受け状態に戻ります。
各種設定を完了する際にも使用します。

［フック（サーチ、A/B）］キー

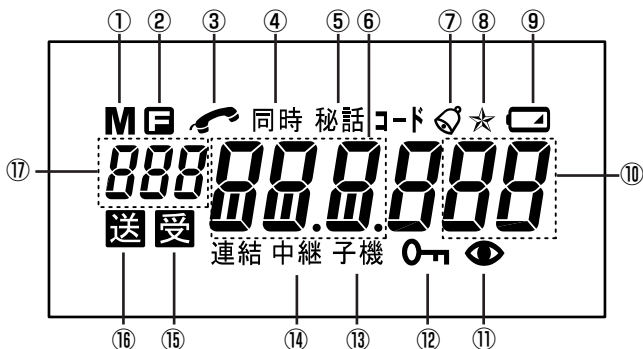
- 同時通話（モード2、4）で応答する際に押します。
- 空いているチャンネルを探します。（モード1）
- F点灯状態では周波数帯（A/B）が切り替わります。（モード3〜8、11）

DC-IN

外部電源接続端子です。
オプションのACアダプター（EDC-122）やシガーライターケーブル（EDH-18）を接続します。
オプションのリチウムイオンバッテリーパックやニッケル水素充電池を装着し充電できます。

> **注意** 外部電源のプラグの抜き差しは、本機の電源をOFFにしてから行ってください。

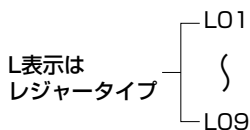
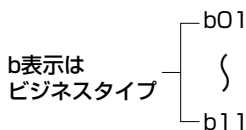
■キー配置

	キー名称	機　能
①	[パワー]キー	約2秒間押して電源をON/OFFします。
②	[ファンクション(O┳)]キー	各種設定の開始に使用します。 約2秒間押し続けるとキーロックができます。
③	[グループ(スクランブル)]キー、[メモリー]キー	グループトーク機能(P.56)に使用します。 F点灯状態(＊1)では、秘話(スクランブルトーク)機能(P.57)に使用します。 メモリーモードの呼び出し、書き込みにも使用します。
④	[モニター(モード)]キー、[スキャン]キー	相手の音声が途切れるときに使用します。 F点灯状態ではモードの切り替えに使用します。 約2秒間押すとスキャンを開始します。

＊1：F点灯状態とは、[ファンクション]キーを押してディスプレイにFを点灯させた状態です。

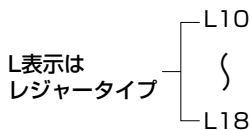
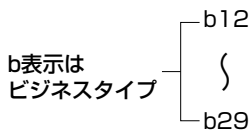
■ディスプレイ

	説　明
①	メモリーモード時に点灯します。
②	［ファンクション］キーを押すと点灯します。
③	電話感覚で使用できる同時通話モード時に点灯します。
④	同時通話モード時に点灯します。
⑤	秘話機能設定時に点灯します。
⑥	チャンネル番号を表示します。（「チャンネル表記について」P.21参照）
⑦	ベル機能設定時に点灯します。
⑧	バイブレーター機能設定時に点灯します。
⑨	電池が消耗すると点灯します。
⑩	グループ番号を表示します。
⑪	ケアモニターモード（モード8）設定時に点灯します。
⑫	キーロック中に点灯します。
⑬	子機として使用する各モード時に点灯します。
⑭	中継器または中継器対応子機の各モード時に点灯します。
⑮	受信中に点灯します。
⑯	送信中に点灯します。
⑰	モード番号、周波数帯、メモリー番号を表示します。

■チャンネル表示について

●単信時（モード1）

レジャー、ビジネス両方の20チャンネルを搭載しています。

L表示のチャンネルでは、従来のレジャータイプ（9チャンネル機）と通信できます。

b表示のチャンネルでは、従来のビジネスタイプ（11チャンネル機）と通信できます。

●複信時（モード1以外）

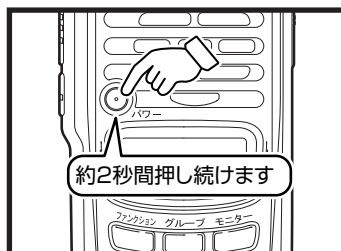
レジャー、ビジネス両方の27チャンネルを搭載しています。

9チャンネル

18チャンネル

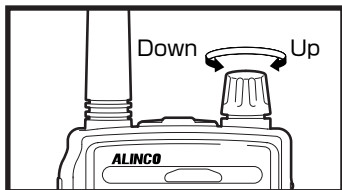
・・・・・・・・・・・・・・ 基本操作 ・・・・・・・・・・・・・・

本機を使用する上で基本となる操作を説明します。

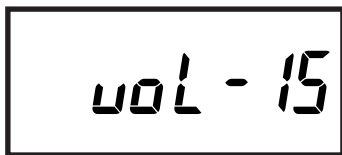
■電源を入れる

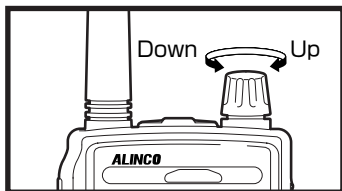
［パワー］キーを約2秒間押します。
電源を切るときも同じ操作をします。

1

■チャンネルを設定する

ダイヤルを回して相手機と同じチャンネルに合わせます。L（レジャー）、b（ビジネス）の表示に注意して合わせてください。

■音量を調整する

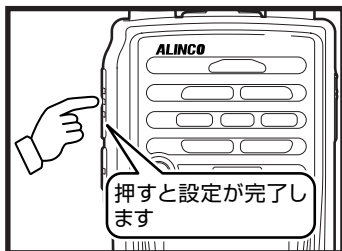
❶ ダイヤルを押す

→ディスプレイに音量レベル「voL-15」が表示されます。初期状態では「15」に設定されています。

❷ ダイヤルを回して音量レベルを調整する

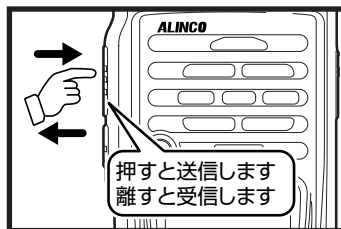
→音量レベルの表示中にダイヤルを回すと音量が増減できます。音量調整は0〜30までの31段階です。

モード2、あるいはモード4の同時通話でヘッドセットなどを使用しない場合は、0〜15までの16段階になります。その場合初期状態は「5」に設定されています。

❸ 希望の音量レベルを選択したら［PTT］キーを押し設定を完了する

各キーの無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を完了します。

→通常の受信待ち受け状態に戻ります。

セットモードのCH/VOLリバース機能（P.66）で、チャンネル設定と音量調整の手順を逆にすることができます。

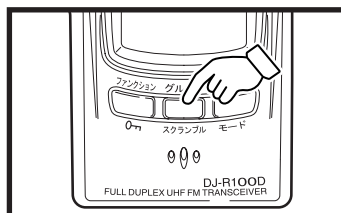
■送信する

［PTT］キーを押すと送信し、離すと受信待ち受け状態に戻ります。
［PTT］キーは、各種設定を完了する際にも使用します。

1

■グループ番号を合わせる（グループトーク機能を設定する）

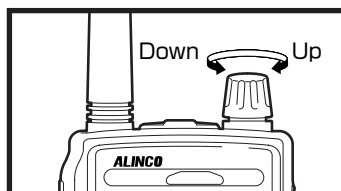
同じグループの人とだけ通話したいときは、グループトーク機能を使用します。
グループトークについては、P.56を参照してください。

❶［グループ］キーを押す

→グループ番号が点灯します。

❷ダイヤルを2回押す

→グループ番号が点滅して、グループ番号を変更することができます。

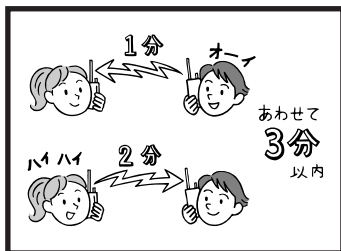
❸ダイヤルを回しグループ番号を選択する

1

❹ ［PTT］キーを押し設定を完了する

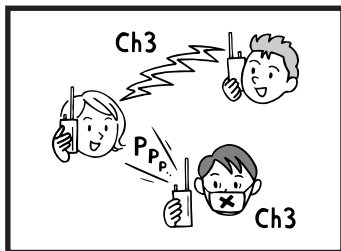
･･･ 特定小電力の通信制限について ･･･

特定小電力トランシーバーの通信に関する制限事項を説明します。

■3分制限（3分以上は連続で送信できません）

送信、受信合わせて3分以内です。
10秒前に警告音が鳴ります。
通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。

・3分の通信時間制限により、自動的に通信が止まった後は、約2秒たたないと次の送信はできません。
・モード1以外のビジネスチャンネルで送信出力を「Lo」にした場合、3分制限は解除され連続送信が可能になります。

■キャリアセンス（受信中は送信できません）

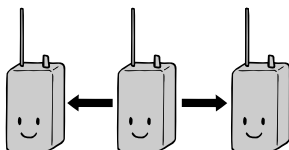
一定の強さの信号を受信しているときは［PTT］キーを押しても送信出来ません。
受信中に［PTT］キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことを知らせます。

ビープ音量を0に設定しているとき、アラーム音は鳴りません。（P.70）

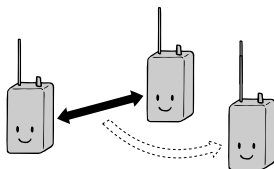
11種類の通信モード

DJ-R100Dで使用できる11種類の通信モードの概要と操作方法を紹介します。

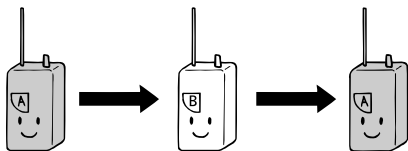
・・・・・・・・・・・ 各モードの概要 ・・・・・・・・・・・

ここでは11種類の通信モードの概要を説明します。

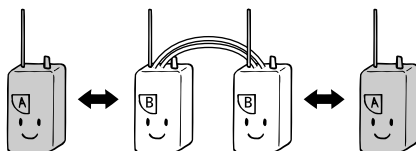
●モード1：交互通話（単信）モード（P.30）

最も基本的な交互通話（単信）モードです。工場出荷状態で電源を入れると、このモードになります。送信時に［PTT］キーを押して通話します。周波数構成が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも通信できます。
使用チャンネル：L1～9、b1～11

●モード2：同時通話（複信）モード（P.32）

電話感覚で話ができる同時通話モードです。基本的には1対1の通信ですが、ループ機能設定時には第三者も通話を聞くことができます。
使用チャンネル：L10～18、b12～29

同時通話モードで通信する場合は、オプションのヘッドセットまたはイヤホンマイクをご使用ください。

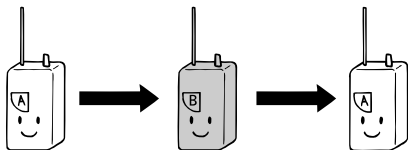
●モード3：半複信中継子機モード（P.35）

半複信方式の中継器にアクセスできるモードです。中継器を使用することによって、直接では電波が届かない相手と通信することができます。周波数構成が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも中継器を介して通信できます。

使用チャンネル：L10〜18、b12〜29

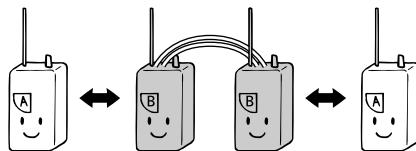
●モード4：複信中継子機モード（P.37）

直接の通信ではつながらない相手と、中継器を介してモード2（同時通話モード）のように通信するモードです。

使用チャンネル：L10〜18、b12〜29

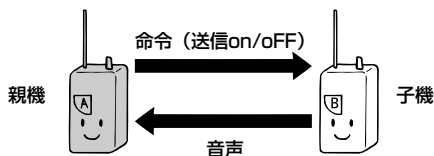
> **注意** 同時通話モードで通信する場合は、オプションのヘッドセットまたはイヤホンマイクをご使用ください。

●モード5：半複信中継器モード（P.41）

半複信方式の中継器として使用するモードです。モード3でアクセスします。

使用チャンネル：L10〜18、b12〜29

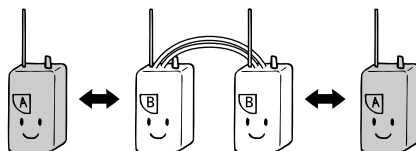
●モード6：複信（連結）中継器モード（P.43）

複信方式の中継器として使用するモードです。モード4、モード8でアクセスします。多段連結が可能で、遠距離の通信に利用できます。

使用チャンネル：L10〜18、b12〜29

●モード7：ケアモニターモード（P.44）

本機2台を使用して、親機から子機の送信をコントロールできます。乳幼児や病人の監視などに活用できます。

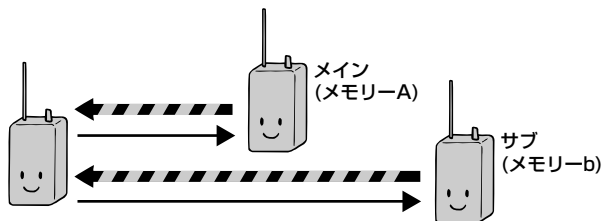
使用チャンネル：L10〜18、b12〜29

・あくまでも簡易的な監視機能とお考えください。
・本機の誤動作、不具合により万一損害が生じましても当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
・周囲の音を送信するため、設置場所のプライバシー漏洩にご注意ください。

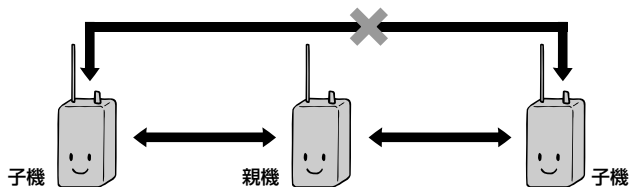
●モード8：半複信連結中継子機モード（P.46）

直接の通信ではつながらない相手と、連結中継器を介してモード1（交互通話モード）のように通信するモードです。

使用チャンネル：L10〜18、b12〜29

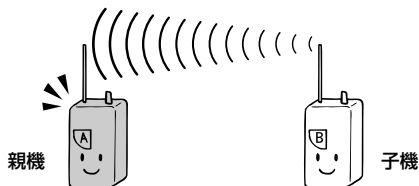
●モード9：デュアルオペレーションモード（P.47）

2

メイン/サブの2つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通信することができるモードです。

使用チャンネル：L1〜9、b1〜11/L10〜18、b12〜29

●モード10：クロスTSQモード（P.49）

親機と子機間のみ通信可能にし、子機どうしの通信は禁止させることができるモードです。業務使用において、子機間の勝手な通信をさせたくない場合などに活用できます。

使用チャンネル：L1〜9、b1〜11

●モード11：ビーコンモード（P.50）

簡易的なビーコンとして使用するモードです。子機が発する電波の強度を音によって知らせます。

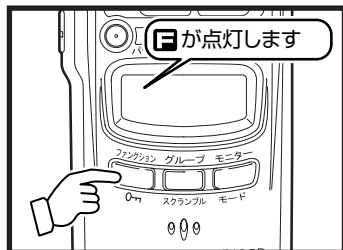
使用チャンネル：L10〜18、b12〜29

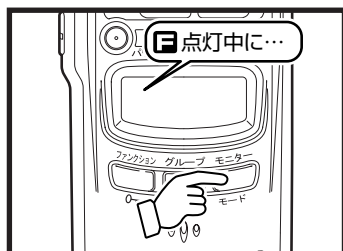
モード1からモード8の通信は、弊社製DJ-R20Dと互換性があります。

・・・・・・・ モードの切り替え方法 ・・・・・・・

工場出荷（初期）状態で電源を入れると、モード1（交互通話モード）になります。ここではモードの切り替え方法について説明します。

❶［ファンクション］キーを押す

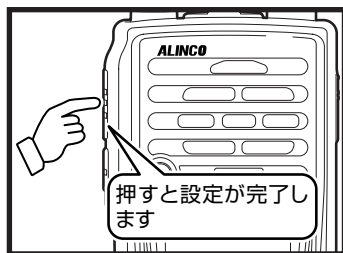
→Fが点灯します。

❷ F点灯中に［モード］キーを押す

→モード番号が点滅します。

❸ ダイヤルを回しモードを選択する

使用する通信モードに合わせます。

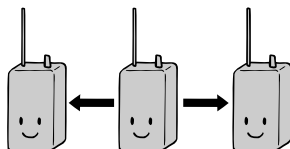
❹［PTT］キーを押して設定を完了する

各キーの無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を完了します。

2

・・・・・・・・・ 各モードの操作方法 ・・・・・・・・・

モード別に操作方法を説明します。

モード1：交互通話（単信）モード

最も基本的な交互通話（単信）モードです。

❶ 電源を入れる

［パワー］キーを約2秒押します。(P.21)

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ 音量を調整する

ダイヤルを押し、音量レベル表示中にダイヤルを回します。音量の調整はP.22を参照してください。

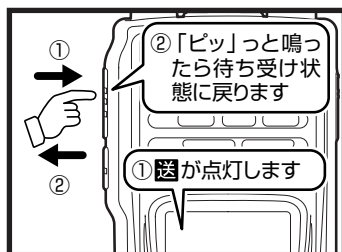
❹ 受信/送信する

●受信する

→信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。ディスプレイの受が点灯します。

相手の声が途切れる場合、[モニター]キーを押してください。聞きやすくなることがあります。[モニター]キーを押すと受が点灯します。もう一度押すと消灯します。(「モニター機能」下記参照)

●送信する

①信号を受信していないことを確認してから［PTT］キーを押します。［PTT］キーを押したままマイクに向かって話します。
→ディスプレイの送が点灯します。

マイクと口元は約5センチ離してください。

②［PTT］キーを離します。
→「ピッ」と音が鳴った後、受信待ち受け状態に戻ります。

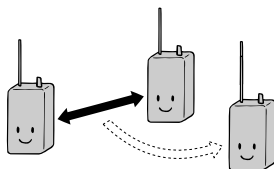
■コールトーン機能

送信中に［ファンクション］キー、［グループ］キー、［モニター］キーのいずれかを押すと、呼び出し音が鳴り相手を呼び出すことができます。

■モニター機能

受信中に相手の声が途切れて聞きづらいときに、［モニター］キーを押してスケルチを一時的に解除することができます。（スケルチとは受信時に信号がないときの「ザー」という雑音を消す機能です。P.68を参照してください。）

モード2：同時通話（複信）モード

電話感覚で通話できるモードです。グループ全員に呼び出しを行い、一番早く応答した人と通話します。モード2にすると自動的に複信チャンネル（L10以降/b12以降）へ移動します。初期状態では「L10」に設定されています。

モード2では「電話タイプ」と「強制タイプ」の2つのタイプが選択できます。
［ファンクション］キーを押し、F点灯中に［フック］キーを約2秒押すと切り替わります。「強制タイプ」を選択するとが消灯します。
電話タイプ ：呼び出し/応答の手順で通話を行います。
強制タイプ ：［PTT］キーを押している間は送信を続けます。（通話が途切れにくい利点があります）

同時通話モードでは、オプションのヘッドセットまたはイヤホンマイクをご使用ください。

■電話タイプ

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「2」に設定します。
→同時 子機 が点灯します。

が表示されない場合は、［ファンクション］キーを押してF点灯中に［フック］キーを約2秒押します。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。

❹ 呼び出す

本機の［PTT］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押します。
→10秒間呼び出し音が鳴り、相手からの返事を待ちます。

メモ
途中で呼び出しを止めたいときは［フック］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押します。

❺ 応答する

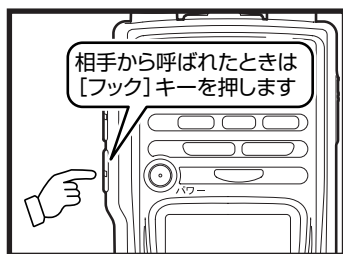
→相手から呼ばれたときは10秒間呼び出し音が鳴ります。
呼び出し音が鳴っている間に［フック］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押すと通話状態になります。

❻ 通話を終了する

通話を終えるには［フック］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押します。

メモ
オプションのヘッドセット（EME-12A/13A/15A/21A/23A）の［PTT］キーを押すごとに、呼び出し/応答/通話の終了、を繰り返します。
ただし、オプションのEME-19Aをご使用になる場合は、操作方法は次のようになります。
呼び出し　：黒いボタンをONにする
応答　　　：黒いボタンをONにする
通話の終了：黒いボタンをOFFにし、白いボタンを押す
通話していないときは、黒いボタンをOFFにし、次の呼び出しを待ちます。

■強制タイプ

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「2」に設定します。
→同時 子機 が点灯します。

が表示されない場合は、そのまま手順3に進んでください。

注意 同時通話モードで通信する場合は、オプションのヘッドセットまたはイヤホンマイクをご使用ください。

2

❷ 強制タイプに切り替える

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［フック］キーを約2秒押します。
→ が消灯し、モード2の強制送信タイプに切り替わります。

電話タイプに戻す場合も同じ操作をします。

❸ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❹ グループ番号を合わせる

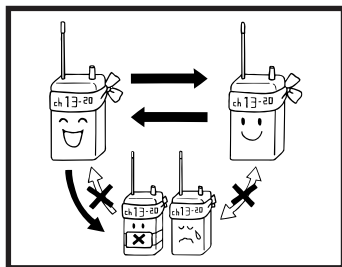
P.23を参照してグループ番号を合わせます。

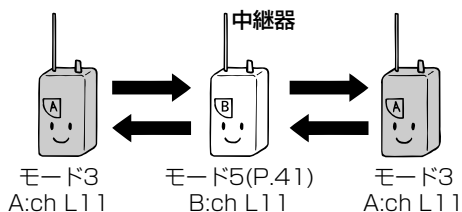
❺ 送信する

［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。
信号を受けた相手機も［PTT］キーを押します。
双方が［PTT］キーを押すと同時通話状態となります。

・ヘッドセットを使用している場合は、ヘッドセット側の［PTT］キーを押します。
・ヘッドセット（EME-12A/13A/15A/21A/23A）を使用して途切れにくい通話を行うには…
モード2の強制タイプに設定し、セットモードのPTTホールド機能（P.78）をONにします。ヘッドセット側の［PTT］キーを押すと、ハンズフリーで途切れにくい通話が行えます。もう一度［PTT］キーを押すと受信待ち受けに戻ります。

■第三者が会話を聞く（ループ機能）

ループ機能（P.76）をONにすると、直接会話に参加していない第三者が会話を聞くことができます。
最初に呼び出しをする無線機が、ループ機能をONにしないと第三者は会話を聞けません。

モード3：半複信中継子機モード

直接の通信では電波が届かない場所にいる相手と、中継器を介して通信するモードです。中継器として、弊社製DJ-P10R、DJ-P11R、DJ-R20D、DJ-R100D（本機）などが必要です。

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「3」に設定します。
→**中継 子機**が点灯します。

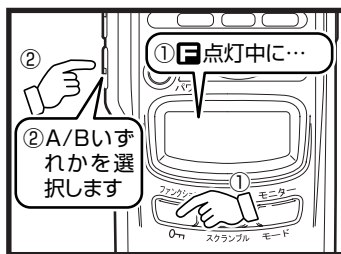
❷ チャンネルとグループ番号を合わせる

2

①ダイヤルを回して中継器とチャンネルを合わせます。
②中継器にグループ番号が設定されている場合、P.23を参照してグループ番号を合わせます。

❸ 周波数帯を設定する

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［A/B］キーを押し、A/Bいずれかを選択します。

メモ　お使いになる中継器の設定をご確認ください。
周波数帯は中継器と逆に設定します。中継器がAなら子機をB、中継器がBなら子機をAとします。

❹ 送信する

①［PTT］キーを押し続けます。
→中継器へのアクセスが成功すれば、約1秒後に「ピピッ」という音が聞こえます。
②［PTT］キーを押したままマイクに向かって話します。

注意　それぞれの無線機が至近距離にあると誤動作することがあります。子機―中継器間、子機―子機間は10メートル以上離してください。

■「プププ…」と音がしたら

中継器へのアクセスが失敗した場合「プププ…」と音が出ます。一度［PTT］キーを離し、再度押し続けてください。
中継器との距離が遠く通話エリアにない場合も「プププ…」という音が出ます。この場合は中継器を使用することはできません。

2

モード4：複信中継子機モード

直接の通信では電波が届かない場所にいる相手と、中継器を介して同時通話で通信するモードです。

モード4では「電話タイプ」と「強制タイプ」の2つのタイプが選択できます。
［ファンクション］キーを押し、F点灯中に［フック］キーを約2秒押すと切り替わります。「強制タイプ」を選択すると が消灯します。
電話タイプ ：呼び出し/応答の手順で通話を行います。
強制タイプ ：［PTT］キーを押している間は送信を続けます。（通話が途切れにくい利点があります）

同時通話モードでは、オプションのヘッドセットまたはイヤホンマイクをご使用ください。

■電話タイプ

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「4」に設定します。
→同時中継子機 が点灯します。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回して中継器とチャンネルを合わせます。

❸ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。

2

❹ 周波数帯を設定する

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［A/B］キーを押し、A/Bいずれかを選択します。

メモ お使いになる中継器の設定をご確認ください。
周波数帯は中継器と逆に設定します。中継器がAなら子機をB、中継器がBなら子機をAとします。

❺ 呼び出す

本機の［PTT］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押します。
→10秒間呼び出し音が鳴り、相手からの返事を待ちます。

メモ 途中で呼び出しを止めたいときは［フック］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押します。

❻ 応答する

→相手から呼ばれたときは10秒間呼び出し音が鳴ります。
呼び出し音が鳴っている間に［フック］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押すと通話状態になります。

❼ 通話を終了する

通話を終えるには［フック］キー、またはヘッドセット側の［PTT］キーを押します。

メモ
オプションのヘッドセット（EME-12A/13A/15A/21A/23A）の［PTT］キーを押すごとに、呼び出し/応答/通話の終了、を繰り返します。
ただし、オプションのEME-19Aをご使用になる場合は、操作方法は次のようになります。
呼び出し　：黒いボタンをONにする
応答　　　：黒いボタンをONにする
通話の終了：黒いボタンをOFFにし、白いボタンを押す
通話していないときは、黒いボタンをOFFにし、次の呼び出しを待ちます。

■強制タイプ

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「4」に設定します。
→同時中継子機 が点灯します。

メモ
が表示されない場合は、そのまま手順3に進んでください。

注意
同時通話モードで通信する場合は、オプションのヘッドセットまたはイヤホンマイクをご使用ください。

2

❷ 強制タイプに切り替える

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［フック］キーを約2秒押します。
→が消灯し、モード4の強制送信タイプに切り替わります。

メモ
電話タイプに戻す場合も同じ操作をします。

❸ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回して中継器とチャンネルを合わせます。

❹ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。

❺ 周波数帯を設定する

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［A/B］キーを押し、A/Bいずれかを選択します。

メモ
お使いになる中継器の設定をご確認ください。
周波数帯は中継器と逆に設定します。中継器がAなら子機をB、中継器がBなら子機をAとします。

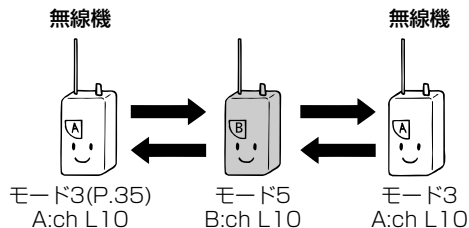
❻ 送信する

［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。
信号を受けた相手機も［PTT］キーを押します。
双方が［PTT］キーを押すと同時通話状態となります。

メモ
・ループ機能を利用して、直接会話に参加していない第三者が会話を聞くことができます。（P.76）
・ヘッドセットを使用している場合は、ヘッドセット側の［PTT］キーを押します。

注意
原理上、相手機に音声が届くまでに頭切れを起こすことがあります。それぞれの無線機が至近距離にあると誤動作することがあります。子機―中継器間、子機―子機間は10メートル以上離してください。

モード5：半複信中継器モード

モード3（半複信中継子機）の中継器として使用するモードです。モード5に設定すると、中継動作の反応をよくするため自動的にバッテリーセーブ機能が解除されます。セットモードで有効にすることもできます。（P.74）

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「5」に設定します。
→**中継**が点灯します。

❷ チャンネルとグループ番号を合わせる

①ダイヤルを回して子機とチャンネルを合わせます。
②必要に応じてグループ番号を子機と同じ番号に設定します。グループ番号はP.23を参照して合わせてください。

❸ 周波数帯を設定する

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［A/B］キーを押し、A/Bいずれかを選択します。

メモ

・周波数帯は子機と逆に設定します。中継器がAなら子機をB、中継器がBなら子機をAとします。
・中継器は見通しのよい場所に設置してください。
・モード5の中継器からも受信音が聞こえるため、必要に応じて音量レベルを調整してください。
・弊社製DJ-P21、DJ-P27を子機として使用する場合は、本機をモード5（半複信中継器モード）の周波数帯Bに設定してください。

注意

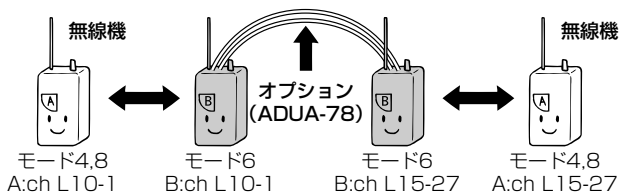
・モード5は中継器として動作するため通話はできません。
・それぞれの無線機が至近距離にあると誤動作することがあります。子機―中継器間、子機―子機間は10メートル以上離してください。
・中継器として設置する際は、直接風雨にさらされる場所や直射日光のあたる場所は避けてください。
・ACアダプターを使用する場合は、水分がコードを伝って機器内部へ浸入しないようご注意ください。

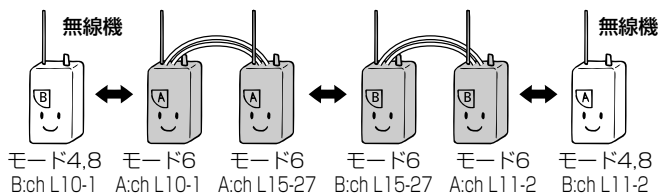
2

モード6：複信（連結）中継器モード

オプションの中継ケーブル（ADUA-78　全長約80センチ）を使用し、モード4とモード8の中継器として使用するモードです。

●奇数組の場合

次のイラストのチャンネル、グループ番号は一例です。あらかじめ動作確認を行ってください。

●偶数組の場合

次のイラストのチャンネル、グループ番号は一例です。あらかじめ動作確認を行ってください。

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「6」に設定します。
→同時 中継が点灯します。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回して子機、または隣接する中継器とチャンネルを合わせます。

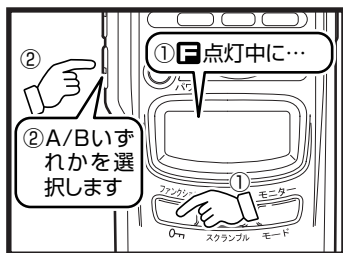
❸ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。

2

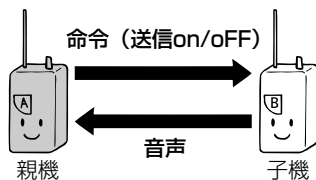
❹ 周波数帯を設定する

①［ファンクション］キーを押します。
→が点灯します。
②点灯中に［A/B］キーを押し、A/Bいずれかを選択します。

2

メモ
・中継ケーブルで接続している中継器どうしはチャンネル、グループ番号を異なる番号に、周波数帯を同じに設定します。
隣接する子機および中継器に対してはチャンネル、グループ番号は同じに、周波数帯は逆（隣接する子機および中継器がAならB、BならA）に設定します。
・中継器は見通しのよい場所に設置してください。

注意　モード6は中継器として動作するため、通話はできません。

モード7：ケアモニターモード

本機2台を使用して、親機から子機の送信をコントロールし、子機周辺の音をモニターできるモードです。

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「7」に設定します。
→👁が点灯します。

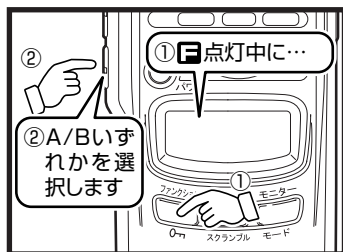
❷ チャンネルを合わせる

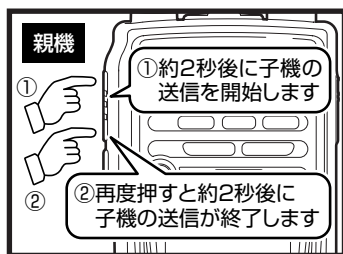
ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。

❹ 周波数帯を設定する

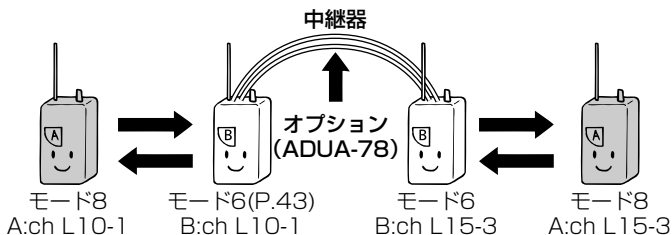
①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［A/B］キーを押し、A/Bいずれかを選択します。必ず親機をA、子機をBに設定します。

❺ 子機をコントロールする

①親機の［PTT］キーを押し、すぐに離します。
→約2秒後に子機の送信が開始されます。
②もう一度親機の［PTT］キーを押し、すぐに離します。
→約2秒後に子機の送信が終了します。

- あくまでも簡易的な監視機能とお考えください。
- 本機の誤動作、不具合により万一損害が生じましても当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 周囲の音を送信するため、設置場所のプライバシー漏洩にご注意ください。

子機側で送信を途中で止めたい場合は、子機の［フック］キーを押します。

モード8：半複信連結中継子機モード

直接の通信ではつながらない相手と、連結中継器を介してモード1（交互通話モード）のように通信するモードです。

2

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「8」に設定します。
→**中継 子機**が点灯します。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回して中継器とチャンネルを合わせます。

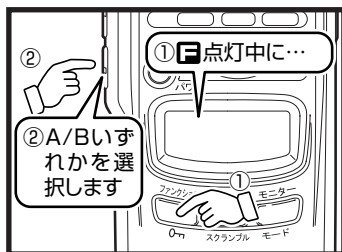
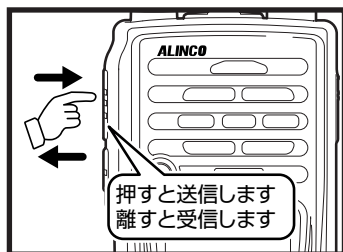
❸ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。

❹ 周波数帯を設定する

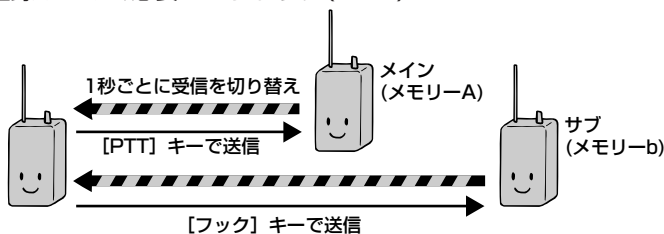
①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［A/B］キーを押し、A/Bいずれかを選択します。

お使いになる中継器の設定をご確認ください。
周波数帯は中継器と逆に設定します。中継器がAなら子機をB、中継器がBなら子機をAとします。

❺ 送信する

［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。
もう一方は相手の送信が終了してから［PTT］キーを押し送信します。

原理上、相手機に音声が届くまでに頭切れを起こすことがあります。それぞれの無線機が至近距離にあると誤動作することがあります。子機―中継器間、子機―子機間は10メートル以上離してください。

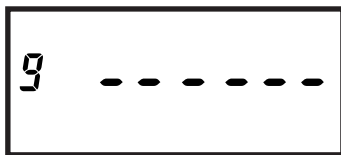
2

モード9：デュアルオペレーションモード

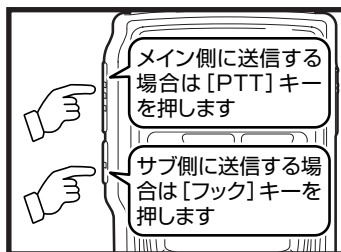
メイン/サブの2つのチャンネルを1秒ごとに交互に受信し、そのどちらとも通信することができるモードです。
メイン/サブに設定する内容は、あらかじめメモリー番号A、およびbに登録しておく必要があります。（P.54）

❶ メモリー番号A、およびbを登録する

P.54を参照して、メインに設定する内容をメモリー番号Aに、サブに設定する内容をメモリー番号bに登録します。

❷ モード番号を設定する

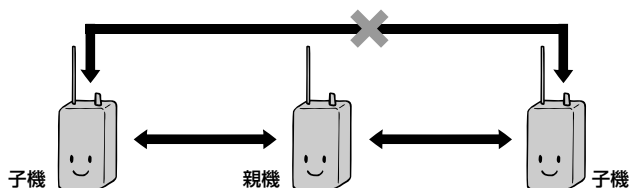
P.29を参照してモード番号を「9」に設定します。
→約1秒間「duAL」と表示されます。登録済みのメモリー番号Aをメインに、bをサブとして1秒ごとに交互に受信待ち受けを開始します。信号を受信すると交互待ち受けが止まります。

❸ 送信/受信する

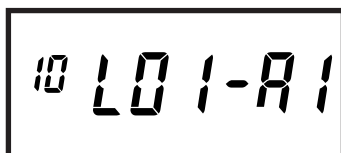
●送信する

メイン側に送信する場合は［PTT］キーを、サブ側に送信する場合は［フック］キーを押します。
→送受信が終了し約5秒経過すると1秒ごとの交互待ち受けを再開します。

●受信する

→メイン側を受信すると「mAin」と表示され、「ピッ」音が鳴ります。また、サブ側を受信すると「SUb」と表示され、「ピピッ」音が鳴ります。

モード10：クロスTSQモード

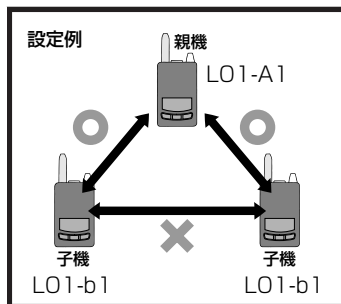
親機と子機間のみ通信可能にし、子機どうしの通信は禁止させることができるモードです。

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「10」に設定します。
→約1秒間「CroSS」と表示されます。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

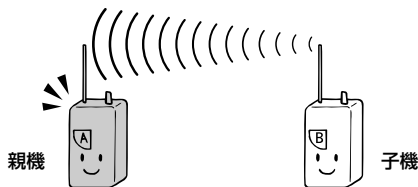
❸ グループ番号を合わせる

P.23を参照してグループ番号を合わせます。グループ番号は対応表を参考に設定してください。例えば、親機がA＊なら子機をb＊、親機がb＊なら子機をA＊に設定します。

グループ番号対応表
A1–b1
A2–b2
A3–b3
A4–b4
A5–b5
A6–b6
A7–b7
A8–b8
A9–b9
A0–b0

親機―子機間のみ通話でき、子機―子機間は通話できません。

モード11：ビーコンモード

簡易的なビーコンとして使用するモードです。子機が発する電波の強度を音によって知らせます。

2

❶ モード番号を設定する

P.29を参照してモード番号を「11」に設定します。
→約1秒間「bEAcon」と表示されます。

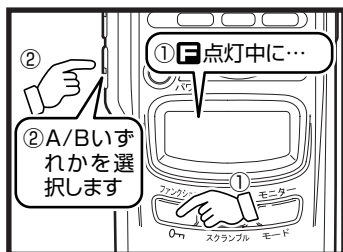
❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ グループ番号を合わせる

グループトークを設定する場合は、ダイヤルを回しグループ番号を合わせます。グループ番号はP.23を参照して合わせてください。

❹ 周波数帯を設定する

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［A/B］キーを押し、A/Bいずれかを選択します。必ず親機をA、子機をBに設定してください。
→子機が間欠送信を始めます。子機が発する電波の強度によって、親機から鳴る音の周期が変化します。

・初期状態では、子機の電波が強くなるほど親機の音の周期が短くなるように設定されていますが、その動作を逆に（子機の電波が弱くなるほど親機の音の周期が短くなる）することができます。
親機の発信音の動作を変更するには、［フック］キーを約2秒押します。ディスプレイに「SLo」と表示され、動作が逆になります。再度［フック］キーを約2秒押すと、ディスプレイに「FASt」と表示され、動作が初期状態に戻ります。
SLo　　：子機が遠ざかるにつれ、親機の音の周期が短くなる
FASt　 ：子機が近づくにつれ、親機の音の周期が短くなる
・小エリアで使用する場合など電波が強すぎるときは、子機の送信出力を「ローパワー」に設定（P.67）してください。

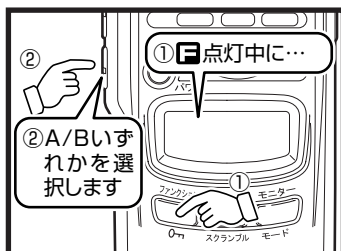
2

■子機の間欠送信を止めるには

●通信モードを変える

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［モニター］キーを押します。
③ダイヤルを回し、他の通信モードに変更します。

●周波数帯を変える

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［A/B］キーを押します。
→親機に変わります。

・・・・・ 通信モード別設定機能一覧 ・・・・・

各モードで使用できる機能の一覧です。モードによっては自動的に設定される機能もありますので、ご注意ください。それぞれの機能の設定方法は、該当するページを参照してください。

2

モード	モード名	チャンネル	ディスプレイ表示	グループトーク (P.56)	秘話機能 (P.57)	フリーチャンネルサーチ (P.59)	連続送信 (P.67)	バイブレータ (P.70)	ベル (P.71)	アラーム (P.73)	ハングアップタイマー (P.73)	ループ (P.76)
1	交互通話（単信）モード	L1~9 b1~11	子機	○	○	○	※	○	○	×	×	×
2	同時通話（電話）モード	L10~18 b12~29	同時/子機 （電話アイコン）	◎	×	×	△	○	◎	×	×	○
	同時通話（強制）モード	L10~18 b12~29	同時/子機	○	×	×	△	○	○	×	×	○
3	半複信中継子機モード	L10~18 b12~29	中継/子機	○	○	×	△	○	○	×	×	×
4	複信中継子機（電話）モード	L10~18 b12~29	同時/子機 （電話アイコン）/中継	◎	×	×	△	○	◎	×	×	○
	複信中継子機（強制）モード	L10~18 b12~29	同時/子機 中継	○	×	×	△	○	○	×	×	○
5	半複信中継器モード	L10~18 b12~29	中継	○	×	×	△	×	×	○	○	×
6	複信（連結）中継器モード	L10~18 b12~29	同時/中継	◎	×	×	△	×	×	×	×	×
7	ケアモニターモード	L10~18 b12~29	（目アイコン） bch:子機	◎	×	×	△	×	×	×	×	×
8	半複信連結中継子機モード	L10~18 b12~29	中継/子機	◎	○	×	△	○	○	×	×	×
9	デュアルオペレーションモード	▲	▲	▲	▲	×	△	×	×	×	×	×
10	クロスTSQモード	L1~9 b1~11	–	◎	○	×	※	○	○	×	×	×
11	ビーコンモード	L10~18 b12~29	bch:子機	○	×	×	※	×	×	×	×	×

◎　:自動的に設定されます
○　:設定できます
△　:チャンネルがb12〜b29のときに設定できます
×　:設定できません
▲　:メモリー登録したモードによって異なります
※　:設定できませんが、1mW送信は可能です

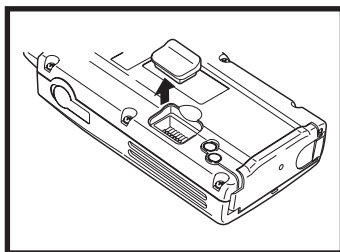
便利な機能

本機を使用する際に便利な機能を紹介します。

・・・ スイッチによるモード固定機能 ・・・

本機背面にある小型スイッチを設定することにより、使用したいモードを固定することができます。
モード1からモード8までを選択することができます。
スイッチによりモードを固定した場合、キー操作によるモード変更はできなくなります。

3

本機背面にあるゴムキャップを外し、8つのスイッチのうちいずれかひとつだけをONにしてください。

1	モード1　交互通話（単信）モード
2	モード2　同時通話（複信）モード
3	モード3　半複信中継子機モード
4	モード4　複信中継子機モード
5	モード5　半複信中継器モード
6	モード6　複信（連結）中継器モード
7	モード7　ケアモニターモード
8	モード8　半複信連結中継子機モード

・スイッチを操作する際には、スイッチを破損しないようご注意ください。
・ゴムキャップを紛失しないようご注意ください。

メモリーモード

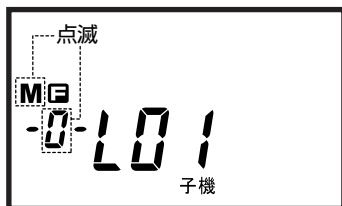
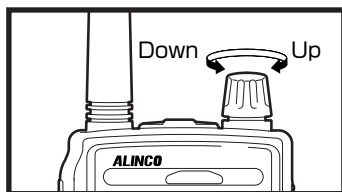
あらかじめ登録しておいたチャンネルを呼び出して運用するモードです。登録できる数は、0〜9、A、bの12個です。
A、bに登録した内容はモード9（デュアルオペレーションモード）でも使用します。

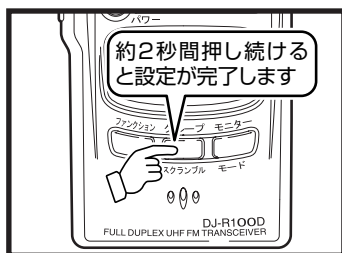
■メモリー登録

❶ 登録したい状態（モード、チャンネル、グループトークの有無など）に設定する

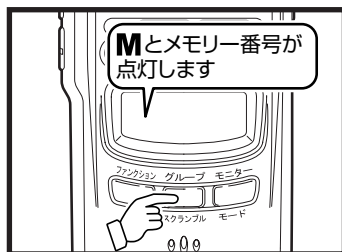
3

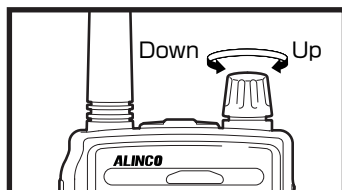
❷ ［ファンクション］キーを押す

→**M**とメモリー番号が点滅します。

❸ ダイヤルを回し登録したいメモリー番号（0〜9、A、b）を選択する

❹ ［グループ］キーを約2秒押す

→「writE」と表示され、メモリーに設定した内容が登録されます。

■メモリー呼び出し

❶［グループ］キーを約2秒押す

→Mとメモリー番号が点灯し、メモリーモードに切り替わります。

❷ダイヤルを回し使用するメモリー番号を選択する

通常の通信モードへ戻すには、再度［グループ］キーを約2秒押します。

・メモリーモード時に登録された通信モードを確認するには、［グループ］キーを押します。また、セットモードのメモリー表示機能（P.69）でメモリー番号と通信モードのどちらを優先して表示させるかを選択することができます。
・一度登録されたメモリー内容を消去するには、完全リセット（P.63）操作を行ってください。
メモリー内容の変更は上書きすることで可能です。

3

・・・・・・・・・・・ グループトーク ・・・・・・・・・・・

同じグループの人とだけ通信したいときはグループトーク機能を使用します。

❶ グループトークモードにする

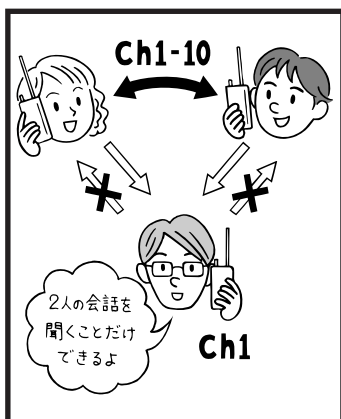
［グループ］キーを押します。
→グループ番号が点灯します。

3

❷ グループ番号を合わせる

ダイヤルを2回押し、グループ番号が点滅中にダイヤルを回します。グループ番号を合わせるにはP.23を参照してください。

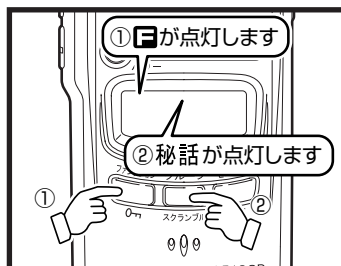
❸ 送信する

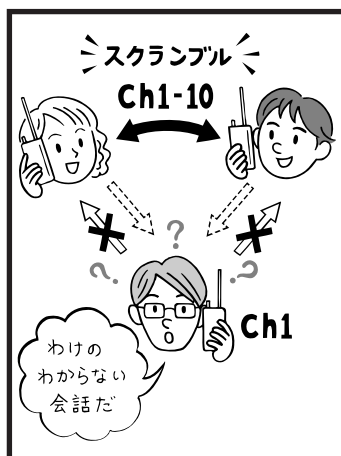
［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。
→同じチャンネル、同じグループ番号の相手とだけ通話できます。
ただし、グループトーク機能のない同じチャンネルのトランシーバーには話し声が聞こえます。

・・秘話機能（スクランブルトーク）・・

スクランブルトークにすると、他の人には会話の内容が理解できなくなります。秘話機能を搭載した弊社製トランシーバーとも通話することができます。

❶ 秘話モードにする

①［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。
②F点灯中に［スクランブル］キーを押します。
→**秘話**が点灯します。

❷ 送信する

［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。
→同じチャンネルで秘話機能を設定している相手とだけ通話できます。
秘話機能のないトランシーバーには話し声は聞こえますが内容はわかりません。

3

スキャン

自動的に受信チャンネルを切り替えて、信号が出ているところを探し出す機能です。スキャン停止後、信号がなくなれば次のチャンネルへ移ります。

注意　本機能はモード1、モード3でのみ使用できます。

3

❶ スキャンを開始する

[モニター] キーを約2秒押します。
→スキャンが始まります。信号を受信したチャンネルで止まります。信号がなくなると、またスキャンが始まります。

❷ スキャンを中止する

[モニター] キーを約2秒押すか、[PTT] キーを押します。

・・・・・・ フリーチャンネルサーチ ・・・・・・

チャンネルを次々に切り替えながら、空いているチャンネルを探して通信できる機能です。（モード1のみ）

❶ グループトークモードにする

［グループ］キーを押します。
→グループ番号が点灯します。

❷ グループ番号を合わせる

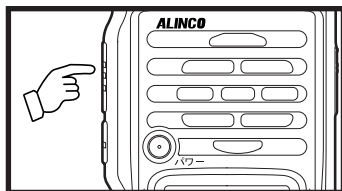
P.23を参照してグループ番号を合わせます。

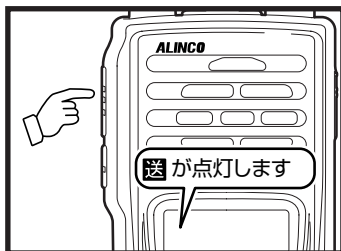
❸ フリーチャンネルサーチを開始する

［サーチ］キーを約2秒押します。
→サーチが開始されチャンネルが次々に変わります。

●相手を呼び出す

［PTT］キーを押します。
→空きチャンネルがあれば、そのチャンネルで止まり、5秒間送信状態となり相手を呼び出します。

3

●送信する

相手から応答音がきたら［PTT］キーを押します。［PTT］キーを押したままマイクに向かって話します。
→ディスプレイの送が点灯します。

マイクと口元は約5センチ離してください。

●受信する

→サーチ中に受信すると、受信したチャンネルで止まり、しばらくすると呼び出し音が鳴ります。
その後相手からの信号を受信しますので応答してください。

5秒間応答がないか、通話が5秒途切れるとサーチが再開されます。

❹ フリーチャンネルサーチを終了する

［サーチ］キーを約2秒押します。
→フリーチャンネルサーチが終了します。

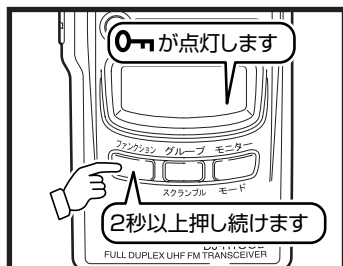
フリーチャンネルサーチはL1～L9間、またはb1～b11間でサーチしますので、あらかじめ使用するチャンネルを決めてください。

キーロック

キーロックしておくと、誤操作などによる設定変更を防止できます。

・キーロック中でも、送信、モニター操作、音量調整は操作可能です。
・セットモードのキーロック設定（P.69）でキーの押し時間を変更することができます。

■キーロックする

［O-π］キーを約2秒押します。
→O-πが点灯します。

■キーロックを解除する

キーロック中に［O-π］キーを約2秒押します。
→O-πが消灯しキーロックが解除されます。

バッテリー警告機能

電池の残量が少なくなると▭が点灯します。
電池の交換時期が近づいています。新しい電池と交換してください。

電源OFFの状態で充電すると「CHArGE」と表示され、▭が点滅します。

本機能には誤差があるため、目安程度とお考えください。

緊急通報機能

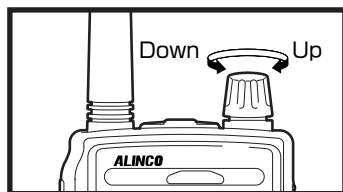
本機を簡易的な緊急通報装置として使用する機能です。普段はトランシーバーとして使用し、万一の際には相手機にアラーム音で知らせます。（モード1のみ）

注意　本機能はモード1でのみ使用できます。

❶ モード1に設定する

P.29を参照して、本機をモード1の設定にします。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ ダイヤルを3秒以上押す

→緊急通報を10秒間送信します。相手機は緊急信号を受信し、アラーム音が鳴ります。

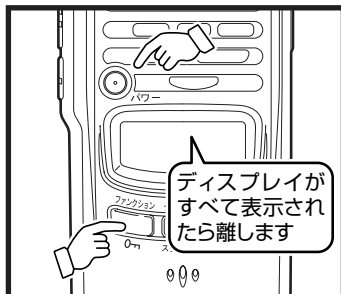
3

リセット

リセットには次の2つの方法があります。
簡易リセット：設定状態などわからなくなったときに初期化します。
完全リセット：工場出荷状態に戻ります。

■簡易リセット

［ファンクション］キーを押しながら電源を入れます。
→ディスプレイ全点灯中に［ファンクション］キーを離します。

簡易リセットでは登録済みメモリー内容、一部の設定済み内容は保存されます。（P.64）

■完全リセット

［ファンクション］キーとダイヤルを押しながら電源を入れます。
→ディスプレイ全点灯中に［ファンクション］キーとダイヤルを離します。

完全リセットでは登録済みメモリー内容、すべての設定済み内容は消去されます。

セットモード

各種機能をより使いやすくするために、本機をカスタマイズする機能です。

セットモード一覧

各種機能をより使いやすくするために、DJ-R100Dをカスタマイズすることができます。

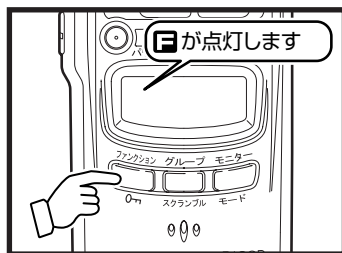
	カスタマイズ項目	参照ページ	初期値	簡易リセット時保存
1	CH/VOLリバース機能	P.66	CH優先	○
2	連続送信(ローパワー)設定	P.67	HI	○
3	ディスプレイ変更機能	P.68	MODE	○
4	スケルチレベル設定	P.68	3	○
5	キーロック設定	P.69	2秒	○
6	メモリー表示機能	P.69	NUMBER	○
7	バイブレーター機能	P.70	OFF	
8	ビープ音量設定	P.70	3	
9	操作音機能	P.71	ON	
10	ベル機能	P.71	OFF	
11	エンドピー機能	P.72	ON	
12	音色変更機能	P.72	1	
13	アラーム機能	P.73	OFF	
14	ハングアップタイマー機能	P.73	0秒	
15	自動接続手順解除機能	P.74	ON	
16	バッテリーセーブ機能	P.74	ON	
17	バッテリーセーブ機能M5	P.75	OFF	
18	オートパワーオフ機能	P.75	OFF	
19	ランプ常灯機能	P.76	5秒	
20	ループ機能	P.76	OFF	
21	Ni-MH電池充電機能	P.77	OFF	
22	電池(電圧)参照機能	P.77	-	
23	PTTホールド機能	P.78	OFF	
24	PTTオフ機能	P.78	ON	
25	LCD消灯機能	P.79	ON	

P.66からP.79にセットモードの各項目の設定方法を記載しています。なお、掲載しているディスプレイ表示は、工場出荷(初期)状態のものです。

各項目の設定方法

セットモードで設定する各カスタマイズ項目の基本的な設定方法は次のとおりです。各項目の詳細は、該当するページを参照してください。

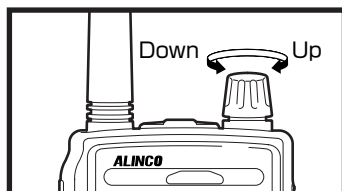
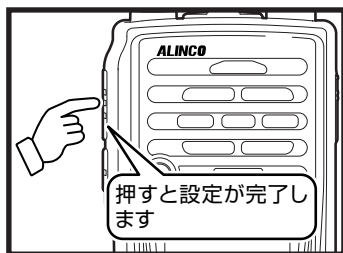
❶ セットモードにする

［ファンクション］キーを押します。
→Fが点灯します。

❷ F点灯中にダイヤルを押す

→セットモードの項目が表示されます。ダイヤルを押すごとに項目が切り替わります。［フック］キーを押すと前項目に戻ります。

❸ ダイヤルを回して設定値を変更する

または、ダイヤルを回してON/OFFを選択します。

4

❹ ［PTT］キーを押して設定を完了する

CH/VOLリバース機能

ダイヤルを回したときに、チャンネル変更/音量調整のどちらを優先的に操作できるかを選択できます。初期状態ではチャンネル優先に設定されています。

❶ CH/VOLリバースの設定をする

セットモードにして（P.65）「CH-voL」を選択します。

❷ ダイヤルを回して「CH-voL」または「voL-CH」を選択する

→「voL-CH」を選択すると音量調整が優先されます。

連続送信（ローパワー）設定

モード2〜8のビジネスチャンネル（b12〜b29）設定時、送信出力を10mWから1mWに抑えることにより、3分間の通話制限が解除され連続送信が可能になります。初期状態では送信出力は10mW（「Hi」）に設定されています。

❶ 連続送信（ローパワー）の設定をする

セットモードにして（P.65）「Pow-Hi」を選択します。

❷ ダイヤルを回しローパワー（「Po.w-Lo」）に設定する

→ローパワーに設定すると、チャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。

モード1の交互通話（単信）モードでは、ローパワーに設定する（1mWにする）ことができますが、連続送信はできません。

ディスプレイ変更機能

ディスプレイのモード番号表示部を、S/RFメーター、または送信制限時間表示として使用することができます。また各チャンネルを周波数表示させることができます。なお、連続送信可能時間は、180秒からカウントダウン表示します。初期状態ではモード表示に設定されています。

❶ ディスプレイ変更の設定をする

セットモードにして（P.65）「modE」を選択します。

❷ ダイヤルを回しディスプレイ方法を選択する

以下からディスプレイ表示方法を選択します。

modE　：モード表示
SmEtEr　：S/RFメーター表示
Cntdn　：カウントダウン表示
FrEq　：周波数表示

スケルチレベル設定

スケルチとは受信時に信号がないときの「ザー」という雑音を消す機能です。初期状態では「3」に設定されています。設定値が大きいほど、強い信号でスケルチが開くようになります。

❶ スケルチレベルの設定をする

セットモードにして（P.65）「SqL 3」を選択します。

❷ ダイヤルを回しレベルを調整する

レベルは0〜5の間で調整できます。

キーロック設定

キーロックするときのキーを押し続ける時間を設定できます。時間を長くすることにより、誤操作による不意なキーロック解除を防止できます。初期状態では「2」秒に設定されています。

❶ キーロックの設定をする

セットモードにして（P.65）「Loc 2」を選択します。

Loc 2

❷ ダイヤルを回し時間を選択する

1～3秒の間で選択できます。

メモリー表示機能

メモリーチャンネル運用時の表示方法を変更する機能です。初期状態ではメモリーチャンネル番号表示に設定されています。

❶ メモリー表示の設定をする

セットモードにして（P.65）「numbEr」を選択します。

numbEr

❷ ダイヤルを回し表示方法を選択する

以下から表示方法を選択します。
numbEr　：メモリーチャンネル番号表示
modE　　：モード表示
no-modE　：メモリーチャンネル番号とモードの同時表示

バイブレーター機能

呼び出されたことをバイブレーターの振動でお知らせします。初期状態ではOFF（バイブレーターなし）に設定されています。

❶ バイブレーターの設定をする

セットモードにして（P.65）「oFF vib」を選択します。

❷ ダイヤルを回し振動タイプと時間を選択する

以下から設定値を選択します。
A10 ：Aタイプ振動を10秒間
b10 ：bタイプ振動を10秒間
A20 ：Aタイプ振動を20秒間
b20 ：bタイプ振動を20秒間
→バイブレーター機能設定時には、★が点灯します。

一定時間（10秒、または20秒間）通話が途切れたあとに受信したとき、バイブレーターが作動します。

ビープ音量設定

本機から鳴るビープ音（操作音）の音量を設定します。初期状態では「3」に設定されています。

❶ ビープ音量の設定をする

セットモードにして（P.65）「bEEP 3」を選択します。

❷ ダイヤルを回しビープ音量を設定する

ビープ音量は0～5の間で選択できます。「0」に設定するとすべてのビープ音が鳴らなくなります。

4

操作音機能

キー操作音のON/OFFを設定します。初期状態ではONに設定されています。

❶ 操作音の設定をする

セットモードにして（P.65）「on Sound」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

ベル機能

呼び出されたことを表示とベル音でお知らせします。初期状態ではOFFに設定されています。

❶ ベルの設定をする

セットモードにして（P.65）「oFF bELL」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

→ベル機能設定時には、🔔が点灯します。

一定時間（10秒、または20秒間）通話が途切れたあとに受信したとき、ベルが作動します。

4

エンドピー機能

［PTT］キーを離したときの「ピッ」音のON/OFFを設定します。初期状態ではONに設定されています。

❶ エンドピーの設定をする

セットモードにして（P.65）「on EndP」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

音色変更機能

モード2、モード4の同時通話での着信音を選択できます。初期状態では「1」に設定されています。設定中に［モニター］キーを押すと、試聴して着信音を確認することができます。

注意 ベル機能の音色も変更されます。

❶ 音色変更の設定をする

セットモードにして（P.65）「1 mELody」を選択します。

❷ ダイヤルを回し音色を3タイプの中から選択する

音色のタイプは、1、2、3から選択します。

4

アラーム機能

モード5（半複信中継器）で中継動作の終了をアラーム音でお知らせします。アラーム動作中に信号を受信すると、中継動作を継続します。初期状態ではOFFに設定されています。

メモ　アラーム機能はモード5のみ有効です。

❶ アラームの設定をする

セットモードにして（P.65）「oFF ALm」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

ハングアップタイマー機能

モード5（半複信中継器）で信号が途切れても、一定時間送信を続ける機能です。初期状態では「0」秒（OFF）に設定されています。

メモ　ハングアップタイマー機能はモード5のみ有効です。

❶ ハングアップタイマーの設定をする

セットモードにして（P.65）「0 HunGuP」を選択します。

❷ ダイヤルを回し時間を選択する

0秒、0.5秒、1秒、2秒から選択します。

自動接続手順解除機能

モード3（半複信中継子機）、モード5（半複信中継器）の中継動作自動接続手順（AutoKerchunk）を解除する機能です。接続タイミングの異なる中継器へのアクセスに活用できます。初期状態ではONに設定されています。

❶ 自動接続手順解除の設定をする

セットモードにして（P.65）「on Auto」を選択します。

on Auto

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

バッテリーセーブ機能

待ち受け状態が5秒以上続くと、内部電源を定期的にON/OFFさせて電池の消費を抑える機能です。初期状態ではONに設定されています。

❶ バッテリーセーブの設定をする

セットモードにして（P.65）「on bS」を選択します。

on bS

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

→バッテリーセーブ機能をOFFに設定すると、チャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。

バッテリーセーブ機能M5（モード5専用）

モード5（半複信中継器）専用のバッテリーセーブ機能です。中継動作の反応をよくするため、初期状態ではOFFに設定されています。

❶ バッテリーセーブ（M5）の設定をする

oFF m5-bS

セットモードにして（P.65）「oFF m5-bS」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

オートパワーオフ機能

電源スイッチの切り忘れを防ぐ機能です。無操作状態が設定時間続くと、ビープ音が鳴り自動的に電源が切れます。初期状態ではOFFに設定されています。

❶ オートパワーオフの設定をする

セットモードにして（P.65）「oFF APO」を選択します。

❷ ダイヤルを回し時間を選択する

OFF、30分、60分、90分、120分から選択します。

4

ランプ常灯機能

ディスプレイ照明を常時点灯させる機能です。初期状態では「5」秒に設定されており、キー操作をすると5秒間照明が点灯するように設定されています。

ディスプレイ照明を常時点灯させると電池の消耗が早くなります。

❶ ランプ常灯の設定をする

セットモードにして（P.65）「5 LAmP」を選択します。

❷ ダイヤルを回し点灯時間を設定する

OFF、5秒、ONから選択します。

4

ループ機能

モード2、モード4の同時通話で第三者が会話を聞くことができる機能です。初期状態ではOFFに設定されています。

モード2で使用する場合は、最初に呼び出しを行う機器に設定してください。両方の機器に設定しても問題ありません。
モード4で使用する場合は、片方の機器のみに設定してください。両方の機器に設定すると原理上ハウリングが発生します。

❶ ループの設定をする

セットモードにして（P.65）「oFF AFLooP」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

Ni-MH電池充電機能

オプションのニッケル水素充電池（EBP-57N）にトリクル充電する機能です。初期状態ではOFFに設定されています。

本機能は微小電流による充電であるため、補充電程度とお考えください。充電時間の目安は次のとおりです。
EBP-57N（1800mAh）：約15時間

単三乾電池（マンガン/アルカリ）装着時には絶対に充電しないでください。液漏れを起こし、事故や故障の原因となります。

❶ Ni-MH電池充電の設定をする

セットモードにして（P.65）「oFF CHArGE」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

電池（電圧）参照機能

電池のタイプと電圧を参照する機能です。「t3」は単三型電池、「Li」はリチウムイオンバッテリーパックを示します。

電圧には誤差を含みますので、目安程度とお考えください。

❶ 電池（電圧）を参照する

セットモードにして（P.65）電池（電圧）表示を選択します。
→電池のタイプと電圧が表示されます。外部電源使用時は、「FULL」と表示されます。
イラスト中の電圧表示は一例です。

PTTホールド機能

［PTT］キーを一度押すと送信を継続する機能です。もう一度押すと受信状態になります。この設定を行うことで、［PTT］キーを押し続ける必要がなくなります。初期状態ではOFFに設定されています。

❶ PTTホールドの設定をする

セットモードにして（P.65）「oFF PttHLd」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

4

PTTオフ機能

本機を受信専用で使用する場合に、送信を禁止する機能です。［PTT］キーを押しても送信できません。初期状態ではONに設定されています。

❶ PTTオフの設定をする

セットモードにして（P.65）「on Ptt」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

LCD消灯機能

送受信中にディスプレイ表示を消灯させる機能です。送受信音に雑音が混じる場合など、本機能により軽減することがあります。初期状態ではONに設定されており、送受信中でもディスプレイ表示は消えません。

❶ LCD消灯の設定をする

セットモードにして（P.65）「on Lcd」を選択します。

❷ ダイヤルを回しON/OFFを設定する

付　録

本機の補足事項を記載しています。

・・・・ 各チャンネルの送受信周波数 ・・・・

■レジャーチャンネル

L01	422.2000MHz
L02	422.2125MHz
L03	422.2250MHz
L04	422.2375MHz
L05	422.2500MHz
L06	422.2625MHz
L07	422.2750MHz
L08	422.2875MHz
L09	422.3000MHz

	B	A
L10	421.8125MHz	440.2625MHz
L11	421.8250MHz	440.2750MHz
L12	421.8375MHz	440.2875MHz
L13	421.8500MHz	440.3000MHz
L14	421.8625MHz	440.3125MHz
L15	421.8750MHz	440.3250MHz
L16	421.8875MHz	440.3375MHz
L17	421.9000MHz	440.3500MHz
L18	421.9125MHz	440.3625MHz

メモ

複信、半複信モードでの周波数帯について…
A選択時：440MHz側を送信します。
B選択時：421MHz側を送信します。

■ビジネスチャンネル

b01	422.0500MHz
b02	422.0625MHz
b03	422.0750MHz
b04	422.0875MHz
b05	422.1000MHz
b06	422.1125MHz
b07	422.1250MHz
b08	422.1375MHz
b09	422.1500MHz
b10	422.1625MHz
b11	422.1750MHz

	B	A
b12	421.5750MHz	440.0250MHz
b13	421.5875MHz	440.0375MHz
b14	421.6000MHz	440.0500MHz
b15	421.6125MHz	440.0625MHz
b16	421.6250MHz	440.0750MHz
b17	421.6375MHz	440.0875MHz
b18	421.6500MHz	440.1000MHz
b19	421.6625MHz	440.1125MHz
b20	421.6750MHz	440.1250MHz
b21	421.6875MHz	440.1375MHz
b22	421.7000MHz	440.1500MHz
b23	421.7125MHz	440.1625MHz
b24	421.7250MHz	440.1750MHz
b25	421.7375MHz	440.1875MHz
b26	421.7500MHz	440.2000MHz
b27	421.7625MHz	440.2125MHz
b28	421.7750MHz	440.2250MHz
b29	421.7875MHz	440.2375MHz

・・・ トーン周波数一覧（グループ番号） ・・・

番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数
01	67.0Hz	16	114.8Hz	31	192.8Hz	46	196.6Hz
02	71.9Hz	17	118.8Hz	32	203.5Hz	47	199.5Hz
03	74.4Hz	18	123.0Hz	33	210.7Hz	48	206.5Hz
04	77.0Hz	19	127.3Hz	34	218.1Hz	49	229.1Hz
05	79.7Hz	20	131.8Hz	35	225.7Hz	50	254.1Hz
06	82.5Hz	21	136.5Hz	36	233.6Hz		
07	85.4Hz	22	141.3Hz	37	241.8Hz		
08	88.5Hz	23	146.2Hz	38	250.3Hz		
09	91.5Hz	24	151.4Hz	39	69.3Hz		
10	94.8Hz	25	156.7Hz	40	159.8Hz		
11	97.4Hz	26	162.2Hz	41	165.5Hz		
12	100.0Hz	27	167.9Hz	42	171.3Hz		
13	103.5Hz	28	173.8Hz	43	177.3Hz		
14	107.2Hz	29	179.9Hz	44	183.5Hz		
15	110.9Hz	30	186.2Hz	45	189.9Hz		

・・・・・・・・・・・ オプション一覧 ・・・・・・・・・・・

ADUA-78	レピーター（中継）ケーブル（全長約80センチ）
EBP-57N	ニッケル水素充電池
EBP-60	リチウムイオンバッテリーパック
EDC-131A	充電スタンド/ACアダプターセット
EDC-131	充電スタンド単体
EDC-122	ACアダプター単体
EDH-18	シガーDC/DCコンバーター
EMS-59*	スピーカーマイク
EME-12A	VOX付きヘッドセット（ヘッドホンタイプ）
EME-13A	VOX付きヘッドセット（インナータイプ）
EME-15A	VOX付きタイピンマイク
EME-19A	ヘルメット用ヘッドセット
EME-21A	イヤホンマイク
EME-23A	イヤホンマイク
EME-6	イヤホン
EME-26	イヤホン
ESC-40	ソフトケース

*モード2やモード4の同時通話では使用できません。

・・・・・・故障とお考えになる前に・・・・・・

本機が故障かなと思ったら、まずこちらをお読みください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電池の入れ方が間違っている。	電池を正しく入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。充電池を充電してください。
音が出ない。受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定してください。
	相手とチャンネルが違う。	同じチャンネルに合わせてください。
	相手と距離が離れ過ぎている。	通信距離を目安に通信してください。
	グループ番号が違う。	グループ番号を合わせてください。
	［PTT］キーが押されている。	［PTT］キーを離してください。
「ザー」という雑音が出る。	スケルチレベルが低すぎる。	適切なスケルチレベルに設定してください。
送信できない。	信号を受信している。	信号がなくなってから送信するか、チャンネルを変更してください。
	通信制限時間を超過している。	［PTT］キーを離し2秒たってから送信してください。
	［PTT］キーを押しながら電源を入れた。	［PTT］キーを押し直してください。
	PTTオフ機能が働いている。	セットモードでPTTオフ機能をONにしてください。
電池の消耗が早い。	バッテリーセーブ機能がOFFになっている。	セットモードでバッテリーセーブ機能をONにしてください。
	ランプ常灯機能がONになっている。	セットモードでランプ常灯機能をOFFにするか、5秒に設定してください。
キー操作できない。チャンネルが変わらない。	キーロックされている。	キーロックを解除してください。

処置を施しても異常が続くときはリセット（初期化）してください。症状が回復する場合があります。

電池が消耗していると、まれに誤動作することがあります。新しい電池に交換してください。

・・・・・・・・・・定格DJ-R100D・・・・・・・・・・

項目		
送受信周波数	レジャーチャンネル	421.8125～421.9125MHz 422.2000～422.3000MHz 440.2625～440.3625MHz（12.5kHzステップ）
	ビジネスチャンネル	421.5750～421.7875MHz 422.0500～422.1750MHz 440.0250～440.2375MHz（12.5kHzステップ）
電波形式	F3E（FM）	
送信出力	10mW、1mW	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン	
受信感度	-14dBμ以下（12dB SINAD）	
中間周波数	1st IF 21.7MHz/2nd IF 450kHz	
音声出力	内部スピーカー200mW以上/外部出力100mW以上	
消費電流	送信時 約75mA（10mW）、約65mA（1mW）	
	受信定格出力時（50mW） 内部 約200mA/外部 約130mA	
	受信待ち受け時 約55mA	
	バッテリーセーブ時（平均） 約20mA	
通信方式	単信方式、半複信方式、複信方式	
定格電圧	DC2.4V～DC3.7V	
外部電源端子	DC5.0V～DC6.0V　EIAJ規格:区分2	
動作温度範囲	-10℃～+50℃	
寸　法	57（W）×98（H）×27.9（D）mm（突起部除く）	
	アンテナ長　Lタイプ 169mm/Sタイプ 36mm	
重　量	Lタイプ 124g/Sタイプ 119g（電池除く）	